

(3) 実践事例3 資料から分かることに対する児童の予想や疑問を基にした学習問題づくり【単元の導入】

単元の指導計画

単元名

第5学年 「これからの食料生産とわたしたち」（全8時間）[東京書籍5年上]

単元の目標

我が国の食料生産の現状や問題について調べ、これからの日本の食料生産の在り方について考えることを通して、様々な食料生産が国民の食生活を支えていることが分かるとともに、現在の生活を見直したりこれからどうするべきかを考えたりすることができるようにする。

学習指導要領の内容（2）

我が国の農業や水産業について、「ア 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。」を調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えるようにする。

単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての知 識・理解【知】
<ul style="list-style-type: none"> 我が国の様々な食料生産の様子について関心をもち、意欲的に調べている。 国民生活を支えている我が国の食料生産の発展やこれからの食料生産の在り方について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の様々な食料生産の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 調べたことと食料自給率や食料輸入に関する社会的な問題を相互に関連付け、我が国のこれからの食料生産の在り方について考え適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図や統計などの資料を活用して、我が国の食料生産について必要な情報を集め、読み取っている。 調べたことを整理して図や文章にまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な食料生産が国民の食生活を支えていることや食料の中には外国から輸入しているものを理解している。 これからの食料生産には、食料自給率の低下や食の安全性、環境との関わりなど、様々な社会的な問題があることを理解している。

単元の構造（全8時間）

（第1時）学習問題をつくり、学習の計画を立てよう。

（学習問題Ⅰ）日本が食料をたくさん輸入することには、だれにどんなえいきょうがあるのだろう。

[知識や概念の習得]

輸入による「良いこと」「こまること」がある。 ※立場（消費者、生産者、販売者）

（第2時）食生活の変化と食料生産の現状について調べよう。

食料輸入量は増加している。 生産者や耕地面積も減少している。

（第3時）食の安全・安心に対する取り組みについて調べよう。

生産者や販売者は食の安全・安心に対する工夫や環境保全に取り組んでいる。

（第4時）日本が食料を輸入することの影響について、自分の考えをまとめよう。

国民の食生活は国内生産と輸入によって支えられている。 輸入が止まることがある。

（学習問題Ⅱ）国内生産を高めるためには、どうすればいいのだろう。 [知識や概念の活用・定着]

（第5時）国内生産を高めるための解決策を考えよう。

解決策を評価するの観点（実現可能性、効果、即効性）を使って考える。

（第6時）討論を行うための準備をしよう。

実現可能性の視点から解決策を絞り込み、賛成・反対の立場を決める。

（第7時）討論会をしよう。

論題「国内生産を高めるためには、農業をする人を増やすべきである。」

（第8時）国内生産を高めるための解決策を振り返り、提案文を書こう。

これからの日本の食料生産の在り方について、JAに提案文を書く。

様々な食料生産が国民の食生活を支えていることが分かるとともに、現在の生活を見直したりこれからどうするべきかを考えたりする。

授業改善の視点（○）と取り入れた具体的な手立て

○資料を読み取る活動において、児童の予想を基に情報を読み取らせ、児童が段階的に情報を関連付けて思考を深めていくことができるような手立てを取り入れる。

「つかむ」過程

- ① 「日本で食べられている食料を100とすると、国産の食料はどれくらいあるのだろう」と問いかけ、図やイラストを使って予想させることで、視覚的に食料自給率の意味を理解できるようにする。
- ② 日本の食料自給率について、児童の予想を基に予想を確認するという目的をもたせながら資料を読み取る活動を仕組むことで、日本はたくさんの食料が輸入されているという現状を認識させる。
- ③ 児童の予想と現状との感覚のずれを生じる疑問や驚きを引き出した上で、「この現状が良いことなのか。困ることなのか」と問いかけることで、日本の食料生産についての問題意識をもたせながら、予想させる。
- ④ 児童の発言に対して「誰にとって」と問い返すことで、消費者、生産者、販売者の立場に着目させ、児童の予想や疑問を生かして、学習問題Ⅰを設定する。
(①から④へと児童の予想を基に、情報を段階的に関連付けて考えさせる。)

「調べる」過程

- ① 児童の学習問題Ⅰに対する予想を基に、消費者や生産者、販売者など立場を意識させながら食料を輸入することによる影響を調べさせることで、日本の食料生産について多面的に理解させる。
- ② 学習問題Ⅰに対しての自分の考えを記述する時間を毎時の終末に設定することで、調べた事実同士や人々の工夫や努力と関連付けて考えさせるようにし、理解を深めさせる。

○児童の身近な立場から段階的に様々な立場に立たせることによって、社会的事象を多面的・多角的に見て考えることができるようにする。(学習問題Ⅱの設定)

「考え・まとめる」過程

- ① 学習問題Ⅰに対するまとめを行う際に、輸入が止まることがあることに触れさせることで、新たな学習問題(学習問題Ⅱ)「国内生産を高めるためには、どうすればいいのだろう」へと導き、これからの社会の在り方について考えさせる。
- ② 学習問題Ⅱの解決に向けて、解決策の中から論題「農業をする人を増やすべきか」について討論活動を取り入れる。
- ③ 根拠をもって解決策を評価し判断できるように、3つの観点(実現可能性、効果、即効性)を与え、考える手掛かりとさせる。
- ④ 思考ツールとしてチェックシートを用い、自分の考えを可視化させることで、ワークシートや板書で児童が自他の考えを整理し、比較、検討できるようにする。
- ⑤ 単元終末では、これまでの学習を総合的に判断させ、JAの営農センターへ提案させ意見を頂くことで、児童が社会とのつながりを実感したり、新たな課題を発見したりすることをねらう。
(①から⑤へと様々な立場に立たせることで、社会的事象を多面的・多角的に見て考えることができるようにする。)